

注3

大学番号：096

[令和2年度設置]

計画の区分：学部の設置

注1

届出

東京医療保健大学 東が丘看護学部

注2

【届出】設置に係る設置計画履行状況報告書

学校法人青葉学園
令和2年5月1日現在

作成担当者

担当部局（課）名 東が丘事務部

職名・氏名 フヂョウ ナカタタイチ
部長・中田太一

職名・氏名 シュニン キクヂヒロノリ
主任・菊池広訓

電話番号 03-5779-5031

（夜間） 03-5779-5031

F A X 03-5431-1481

e-mail higashigaoka-po@thcu.ac.jp

(注) 1 「計画の区分」は設置時の基本計画書「計画の区分」と同様に記載してください。

2 大学院の場合は、表題を「〇〇大学大学院・・・」と記入してください。

設置時から対象学部等の名称変更があった場合には、表題には現在の名称を記載し、その下欄に
()書きにて、設置時の旧名称を記載してください。

例) 〇〇大学 △△学部 □□学科

(旧名称：◇◇学科(平成◇◇年度より学科名称変更))

表題は「計画の区分」に従い、記入してください。

例)

- ・大学の設置の場合：「〇〇大学」
- ・学部の設置の場合：「〇〇大学 △△学部」
- ・学部の学科の設置の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科」
- ・短期大学の学科の設置の場合：「〇〇短期大学 △△学科」
- ・大学院設置の場合：「〇〇大学大学院」
- ・大学院の研究科の設置の場合：「〇〇大学大学院 〇〇研究科」
- ・大学院の研究科の専攻の設置等の場合：「〇〇大学大学院 〇〇研究科 〇〇専攻(修士課程)」
- ・通信教育課程の開設の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科(通信教育課程)」

3 大学番号の欄については、調査対象大学等に対して別途発行する、事務連絡「令和2年度の履行状況報告書の提出について(依頼)」の別紙に記載のある大学番号を記載してください。

目次

東が丘看護学部

＜看護学科＞	ページ
1. 調査対象大学等の概要等	3
2. 授業科目の概要	7
3. 施設・設備の整備状況、経費	11
4. 既設大学等の状況	12
5. 教員組織の状況	13
6. 附帯事項等に対する履行状況等	33
7. その他全般的事項	34

1 調査対象大学等の概要等

(1) 設置者

学校法人青葉学園

(2) 大学名

東京医療保健大学

(3) 調査対象大学等の位置

〒152-8558 東京都目黒区東が丘 2-5-1
(〒141-8648 東京都品川区東五反田 4-1-17)

- (注) ・対象学部等の位置が大学本部の位置と異なる場合、本部の位置を()書きで記入してください。
・対象学部等が複数のキャンパスに所在する場合には、複数のキャンパスの所在地をそれぞれ記載してください。

(4) 管理運営組織

職名	設置時	変更状況	備考
理事長	(タムラ テツオ) 田村 哲夫 (平成14年4月)		
学長	(キムラ サトシ) 木村 哲 (平成25年4月)		
学部長	(ヤマニシ フミコ) 山西 文子 (平成25年4月)		
学科長等			

- (注) ・「変更状況」は、変更があった場合に記入し、併せて「備考」に変更の理由と変更年月日、報告年度を()書きで記入してください。
(例) 令和元年度に報告済の内容 → (元)
令和2年度に報告する内容 → (2)
・昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更があれば、「変更状況」に赤字にて記載(昨年度までに報告された記載があれば、そこに赤字で見え消し修正)するとともに、上記と同様に、「備考」に変更理由等を記入してください。
・大学院の場合には、「職名」を「研究科長」等と修正して記入してください。
・大学独自の職名を設けていて当該職位がない場合は、各職に相当する職名の方を記載してください。

(5) 調査対象学部等の名称、定員、入学者の状況等

- (注) ・ 当該調査対象の学部等の学科または研究科の専攻等、定員を定めている組織ごとに記入してください(入試区分ごとではありません)。
- ・ なお、課程認定等によりコースや専攻に入学定員を定めている場合は、法令上規定されている最小単位(大学であれば「学科」、短期大学であれば「専攻課程」でも記載してください。その場合適宜各項目の表を追加してください)。
- ・ 様式は、平成28年度開設の4年制の学科の完成年度を越えて報告する場合(令和2年度までの5年間)ですが、完成年度を越えていない場合は修業年限に合わせて作成してください。(修業年限が4年以下の場合には欄を削除し、5年以上の場合には、欄を設けてください。)
- ・ 留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格(いわゆる「留学ビザ」)により、我が国の大学(大学院を含む。)、短期大学、高等専門学校、専修学校(専門課程)及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
- ・ 短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。

(5) - ① 調査対象学部等の名称等

調査対象学部等の名称(学位)	学位又は学科の分野	設置時の計画				備考
		修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	
東が丘看護学部 看護学科 学士(看護学)	保健衛生学関係 (看護学関係)	年 4	人 100	年次 人	人 400	

- (注) ・ 定員を変更した場合は、「備考」に変更前の人数、変更年月及び報告年度を()書きで記入してください。
- ・ 基礎となる学部等がある場合には、「備考」に基礎となる学部等の名称を記入してください。
- ・ 学生募集停止を予定している場合は、「備考」に「令和〇年度から学生募集停止(予定)」と記載してください。
- ・ 「学位又は学科の分野」には、「認可申請書」又は「設置届出書」の「教育課程等の概要(別記様式第2号(その2の1))」の「学位又は学科の分野」と同様に記入してください。

(5) - ② 調査対象学部等の入学者の状況

区分	平成28年度		平成29年度		平成30年度		令和元年度		令和2年度		平均入学定員 超過率	開設年度から 報告年度までの 平均入学定員 超過率	備考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期			
A 入学定員	() []	() []	() []	() []	() []	() []	() []	() []	() []	() []	(100) []	1.15倍	-
志願者数	() []	() []	() []	() []	() []	() []	() []	() []	() []	() []	672 []		
受験者数	() []	() []	() []	() []	() []	() []	() []	() []	() []	() []	612 []		
合格者数	() []	() []	() []	() []	() []	() []	() []	() []	() []	() []	249 []		
B 入学者数	() []	() []	() []	() []	() []	() []	() []	() []	() []	() []	115 []		
入学定員超過率 B/A											1.15		

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ () 内には、編入学の状況について外数で記入してください。なお、編入学を複数年次で行っている場合には、(())書きとするなどし、その旨を「備考」に付記してください。該当がない年度には「-」を記入してください。
- ・ 転入学生は記入しないでください。
- ・ [] 内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。
- ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期(春季入学以外の学期区分を設けている場合)に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「-」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
- ・ 「入学定員超過率」については、各年度の春季入学とその他を合計した入学定員、入学者数で算出してください。なお、計算の際は小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで記入してください。
- ・ 「平均入学定員超過率」には、開設年度から報告年度までの入学定員超過率の平均を記入してください。計算の際は「入学定員超過率」と同様にしてください。なお、完成年度を越えて報告書を提出する大学等は、報告年度(令和2年度)から起算した修業年限に相当する期間の入学定員超過率の平均を記載してください。
- ・ 「開設年度から報告年度までの平均入学定員超過率」は、完成年度を越えて報告書を提出する大学等のみ記入してください。完成年度を越えていない場合は「-」を記入してください。

(5) - ③ 調査対象学部等の在学者の状況

対象年度 学 年	平成28年度		平成29年度		平成30年度		令和元年度		令和2年度		備 考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	
1年次	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	115 [-]	0 [-]	
2年次	/		[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	0 (-)	0 (-)	
3年次	/		/		[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	0 (-)	0 (-)	
4年次	/		/		/		[] ()	[] ()	0 (-)	0 (-)	
計	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	115 [-]	[-] (-)	

・ 令和2年5月1日 公表

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ []内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年度には「-」を記入してください。
 - ・ ()内には、留年者の状況について、内数で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。
 - ・ 編入学生や転入学生も含めて記入してください。その際、備考欄に人数の内訳を記入してください。
 - ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期(春季入学以外の学期区分を設けている場合)に分けて数値を記入してください。春季入学の実施の場合は、その他の学期欄は「-」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
 - ・ 「計」については、各年度の春季入学とその他の学期を合計した在学者数、留学生数を記入してください。

(5) -④ 調査対象学部等の退学者等の状況

区分 対象年度	在学者数(b)	退学者数(a)	内訳			主な退学理由 (留学生の理由は[]書き)
			入学した年度	退学者数		
				うち留学生数		
平成28年度	人	人	平成28年度	人	人	
平成29年度	人	人	平成28年度	人	人	
			平成29年度	人	人	
平成30年度	人	人	平成28年度	人	人	
			平成29年度	人	人	
			平成30年度	人	人	
令和元年度	人	人	平成28年度	人	人	
			平成29年度	人	人	
			平成30年度	人	人	
			令和元年度	人	人	
令和2年度	115 人	0 人	平成28年度	人	人	
			平成29年度	人	人	
			平成30年度	人	人	
			令和元年度	人	人	
			令和2年度	0 人	- 人	
合 計		0 人		0 人	- 人	

(注)・数字は、報告年度の5月1日現在の数字を記入してください。

- ・各対象年度の在学者数については、対象年度の人数を記入してください。(在学者数から退学者数を減らす必要はありません。)
- ・内訳については、退学した学生が入学した年度ごとに記入してください。また、留学生数欄の人数については、退学者数の内数を記入してください。
- ・在学者数、退学者数には編入学生や転入学生も含めて記入してください。
- ・「主な退学理由」は、下の項目を参考に記入してください。その際、「就学意欲の低下(○人)」というように、その人数も含めて記入してください。
(記入項目例)・就学意欲の低下 ・学力不足 ・他の教育機関への入学・転学 ・海外留学
・就職 ・学生個人の心身に関する事情 ・家庭の事情 ・除籍 ・その他

(5) -⑤ 調査対象学部等の年度ごとの退学者の割合

【平成28年度】

$$\frac{\text{平成28年度の退学者数(a)}}{\text{平成28年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{0} = \boxed{\#DIV/0!} \%$$

【平成29年度】

$$\frac{\text{平成29年度の退学者数(a)}}{\text{平成29年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{0} = \boxed{\#DIV/0!} \%$$

【平成30年度】

$$\frac{\text{平成30年度の退学者数(a)}}{\text{平成30年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{0} = \boxed{\#DIV/0!} \%$$

【令和元年度】

$$\frac{\text{令和元年度の退学者数(a)}}{\text{令和元年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{0} = \boxed{\#DIV/0!} \%$$

【令和2年度】

$$\frac{\text{令和2年度の退学者数(a)}}{\text{令和2年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{115} = \boxed{0} \%$$

(注)・小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

2 授業科目の概要

<東が丘看護学部 看護学科>

(1) ① 授業科目表

【認可時又は届出時】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
人間関係と人間関係の形成	人間関係論	1前	1								兼1	
	心理学	1前	1								兼1	
	哲学	1前		1							兼1	
	倫理学	1前		1							兼1	
	社会学	1前		1							兼1	
	文化人類学	1前		1							兼1	
	法学	1後		1							兼1	
	基礎問題の解決	論理学	1前	2								兼1
		自然科学の基礎	1前	1			1	1				兼1
		スポーツ科学	1後		2							兼1
社会保障制度概論 ボランティア論		2前 2後	1 1				1				兼1 兼2	
自己啓発	統計学	2前	2								兼1	
	情報リテラシー	1前	1								兼1	
キャリア開発能力	教育学	2前	2								兼1	
	実用英語Ⅰ	1前	2								兼4	
	実用英語Ⅱ	1後	2								兼4	
	実用英語Ⅲ	2前	2								兼4	
	中国語 スペイン語	1前 1前	1 1								兼1 兼1	
小計 (20科目)	-	16	11	0	1	1	0	0	0		兼20	
基礎問題の解決	医療と法 (看護関係法規)	2前	1								兼1	
	医学概論	1前	1								兼1	
	解剖生理学Ⅰ	1前	2								兼1	
	解剖生理学Ⅱ	1前	2								兼1	
	病理学	1後	2								兼1	
	生化学	1後	1								兼1	
	微生物学	1前	1								兼1	
	薬理学	1後	1								兼1	
	疾病と治療Ⅰ (呼吸器系・消化器系)	1後	2								兼2	
	疾病と治療Ⅱ (血液系・循環器系)	1後	2								兼2	
	疾病と治療Ⅲ (神経系・骨筋系)	2前	2								兼2	
	疾病と治療Ⅳ (泌尿器系・生殖系)	2前	2			1	2				兼1	
	疾病と治療Ⅴ (感覚器系・統合)	2後	2								兼1	
	疾病と治療Ⅵ (精神系)	2後	1								兼1	
	臨床検査学演習	2前	1			3	1		1			兼1
	臨床栄養学演習	2後	1					1				兼1
臨床薬理学演習	2後	1					1				兼1	
公衆衛生学	2前	2			1			1			兼1	
人間工学	2前		1								兼1	
自己啓発	医療・看護情報学の基礎	2前	1								兼1	
キャリア開発能力	実用医療英語	2後	1			2					兼1	
	政策医療論	2後	1			1					兼1	
	保健医療福祉システム論	2後		1			1				兼1	
小計 (23科目)	-	30	2	0	4	4	0	1	0		兼20	

【令和2年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
人間関係と人間関係の形成	人間関係論	1前	1								兼1	
	心理学	1前	1								兼1	
	哲学	1前		1							兼1	
	倫理学	1前		1							兼1	
	社会学	1前		1							兼1	
	文化人類学	1前		1							兼1	
	法学	1後		1							兼1	
	基礎問題の解決	論理学	1前	2								兼1
		自然科学の基礎	1前	1			1	1				兼1
		スポーツ科学	1後		2							兼1
社会保障制度概論 ボランティア論		2前 2後	1 1				1				兼1 兼2	
自己啓発	統計学	2前	2								兼1	
	情報リテラシー	1前	1								兼1	
キャリア開発能力	教育学	2前	2								兼1	
	実用英語Ⅰ	1前	2								兼3	
	実用英語Ⅱ	1後	2								兼3	
	実用英語Ⅲ	2前	2								兼3	
	中国語 スペイン語	1前 1前	1 1								兼1 兼1	
小計 (20科目)	-	16	11	0	1	1	0	0	0		兼17	
基礎問題の解決	医療と法 (看護関係法規)	2前	1								兼1	
	医学概論	1前	1								兼1	
	解剖生理学Ⅰ	1前	2								兼1	
	解剖生理学Ⅱ	1前	2								兼1	
	病理学	1後	2								兼1	
	生化学	1後	1								兼1	
	微生物学	1前	1								兼1	
	薬理学	1後	1								兼1	
	疾病と治療Ⅰ (呼吸器系・消化器系)	1後	2								兼2	
	疾病と治療Ⅱ (血液系・循環器系)	1後	2								兼2	
	疾病と治療Ⅲ (神経系・骨筋系)	2前	2								兼2	
	疾病と治療Ⅳ (泌尿器系・生殖系)	2前	2					2			兼1	
	疾病と治療Ⅴ (感覚器系・統合)	2後	2								兼1	
	疾病と治療Ⅵ (精神系)	2後	1								兼1	
	臨床検査学演習	2前	1			1	1		1			兼1
	臨床栄養学演習	2後	1					1				兼1
臨床薬理学演習	2後	1					1				兼1	
公衆衛生学	2前	2			1			1			兼1	
人間工学	2前		1								兼1	
自己啓発	医療・看護情報学の基礎	2前	1								兼1	
キャリア開発能力	実用医療英語	2後	1			2					兼1	
	政策医療論	2後	1			1					兼1	
	保健医療福祉システム論	2後		1			1				兼1	
小計 (23科目)	-	30	2	0	2	4	0	1	0		兼21	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼担	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
基礎看護学	看護学概論	1前	1			1						
	看護倫理	1後	1				1					
	看護理論	2後	1				1					
	看護教育学	4後	1			1						
	看護学体験実習	1前	1			1	1	10	7			
基礎看護技術学	看護実践技術論Ⅰ (日常生活における援助技術と判断)	1前	2			1	1		3			
	看護実践技術論Ⅱ (治療・処置における援助技術と判断)	1後	1			1	1		3			
	看護実践技術論Ⅲ (看護技術の統合)	1後	1			1	1		3			
	ヘルスアセスメント	1前	1			1	1		3			
	フィジカルアセスメント	1後	1			1	2		3			
	看護過程と看護方法論	1後	1			1	1		3			
	日常生活援助展開実習	1後	1			1	1	10	7			
看護過程展開実習	2前	2			1	1	10	7				
専門分野	成人看護学概論	1後	1			2	1					
	急性期看護論	3前	1			2	2					
	慢性期看護論	2前	1			1						
	終末期看護論	3前	1			1						
	成人看護実践論	3前	1			2	2	1				
	成人看護の探求	3後	1			2	2					
	急性期看護学実習	3後	2				1					
	慢性期看護学実習	3後	2			1			1			
	終末期看護学実習	3後	2			1			1			
	老年看護学概論	1後	1			1	1					
	老年看護実践論	2前	2			2	2	1				
	家族看護学	2後	1			1						
	老年生活支援実習	2後	2				1	1	2			
	老年看護学実習	3後	2				1	1				
	母性看護学概論	2後	2			1	2					
	母性看護実践論	3前	2			1	2					
	母性看護学実習	3後	2			1	2					
	小児看護学概論	2後	2			1	1	1				
	小児看護実践論	3前	2			1	1	1				
	小児看護学実習	3後	2			1	1	1				
精神看護学概論	2後	1			1	1	1					
精神看護実践論	3前	2			1	1	1					
精神看護学実習	3後	2			1	1	1					
臨床コミュニケーション論	2前	1			1	1	1					
障害者看護論	3後	1			1	1	1					
小計 (38科目)	-	54	0	0	4	6	5	10	7	兼0		
在宅看護学	在宅看護学概論	3前	2			1	1		1			
	在宅看護実践論Ⅰ (在宅における看護技術と危機管理)	3後	1			1	1	2	1			
	在宅看護実践論Ⅱ (地域におけるケアシステムと連携)	4前	1				1	2	1			
	在宅看護学実習	4前	2			1	1	2	1			
	地域看護学概論	2後	1			1	1	2				
自立支援教育論	2後	1			1	1	2					
疾病予防看護学	2後	1			1	1	2					
研究	看護研究の基礎	3前	1			3	2					
	英語論文のクリティーク	3後	1			8	8	7	10	7		
	卒業研究	4通	3			8	9	7	10	7	兼1	
	看護管理学	3前	1			1						
看護マネジメント	医療安全学	3前	1			1					兼1	
	災害看護学	2後	1			1	1	2				
	看護学統合実習	4前	3			4	6	7	10			

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼担	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
基礎看護学	看護学概論	1前	1			1						
	看護倫理	1後	1				1					
	看護理論	2後	1				1					
	看護教育学	4後	1			1						
	看護学体験実習	1前	1			1	1	1	8	7		
基礎看護技術学	看護実践技術論Ⅰ (日常生活における援助技術と判断)	1前	2			1	1	1	1	3		
	看護実践技術論Ⅱ (治療・処置における援助技術と判断)	1後	1			1	1	1	1	3		
	看護実践技術論Ⅲ (看護技術の統合)	1後	1			1	1	1	1	3		
	ヘルスアセスメント	1前	1			1	1	1	1	3		
	フィジカルアセスメント	1後	1			1	2		1	3		
	看護過程と看護方法論	1後	1			1	1	1	1	3		
	日常生活援助展開実習	1後	1			1	1	3	8	7		
看護過程展開実習	2前	2			1	1	8	7				
専門分野	成人看護学概論	1後	1			1	1	1				
	急性期看護論	3前	1			1	1	2				
	慢性期看護論	2前	1				1					
	終末期看護論	3前	1			1						
	成人看護実践論	3前	1			1	1	2	1			
	成人看護の探求	3後	1			1	1	2				
	急性期看護学実習	3後	2				1					
	慢性期看護学実習	3後	2			1				1		
	終末期看護学実習	3後	2			1				1		
	老年看護学概論	1後	1			1	1					
	老年看護実践論	2前	2			1	1	2	1			
	家族看護学	2後	1			1						
	老年生活支援実習	2後	2				1	1	2			
	老年看護学実習	3後	2				1	1				
	母性看護学概論	2後	2				2					
	母性看護実践論	3前	2				1		1			
	母性看護学実習	3後	2				1		1			
	小児看護学概論	2後	2				1	1	1			
	小児看護実践論	3前	2				1	1	1			
	小児看護学実習	3後	2				1	1	1			
精神看護学概論	2後	1				1	1	1				
精神看護実践論	3前	2				1	1	1				
精神看護学実習	3後	2				1	1	1				
臨床コミュニケーション論	2前	1				1	1	1				
障害者看護論	3後	1				1	1	1				
小計 (38科目)	-	54	0	0	4	6	7	8	7	兼0		
在宅看護学	在宅看護学概論	3前	2				1		1			
	在宅看護実践論Ⅰ (在宅における看護技術と危機管理)	3後	1				1	1	1	1		
	在宅看護実践論Ⅱ (地域におけるケアシステムと連携)	4前	1						2	1		
	在宅看護学実習	4前	2				1		2	1		
	地域看護学概論	2後	1				1	1	1			
自立支援教育論	2後	1				1	1	1				
疾病予防看護学	2後	1				1	1	1				
研究	看護研究の基礎	3前	1			1	2					
	英語論文のクリティーク	3後	1			6	7	7	7	7		
	卒業研究	4通	3			6	9	7	7	7		
	看護管理学	3前	1			1						
看護マネジメント	医療安全学	3前	1			1					兼1	
	災害看護学	2後	1			1	1	1				
	看護学統合実習	4前	3			5	6	4	7			

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置				兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教		助手
キャリア開発	国際看護学Ⅰ	2後	1			1	1				
	国際看護学Ⅱ	3前		2		1					
	チーム医療論	4前	1			1					
	看護職とキャリア形成	4後	1				1				
	NP論	4後		1		1					兼1
	看護政策論	4後		1		1					兼1
小計(20科目)		-	23	4	0	8	9	7	10	7	兼2
合計(101科目)		-	123	17	0	8	9	7	10	7	38
卒業要件及び履修方法											
「基礎分野」については16単位、「専門基礎分野」については30単位、「専門分野」については54単位、「統合分野」については23単位、上記4分野からの選択科目6単位の合計129単位以上とする。(履修科目の登録の上限:45単位(年間))											

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置				兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教		助手
キャリア開発	国際看護学Ⅰ	2後	1			1					
	国際看護学Ⅱ	3前		2		1					
	チーム医療論	4前	1			1					
	看護職とキャリア形成	4後	1				1				
	NP論	4後		1		1					兼1
	看護政策論	4後		1		1					兼1
小計(20科目)		-	23	4	0	6	9	7	9	7	兼1
合計(101科目)		-	123	17	0	6	9	7	10	7	36
卒業要件及び履修方法											
「基礎分野」については16単位、「専門基礎分野」については30単位、「専門分野」については54単位、「統合分野」については23単位、上記4分野からの選択科目6単位の合計129単位以上とする。(履修科目の登録の上限:45単位(年間))											

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ 認可申請書又は設置届出書の様式第2号(その2の1)に準じて作成してください。
- ・ 各欄の作成方法は「大学の設置等に係る提出書類作成の手引き」の「教育課程等の概要」を確認してください。
- ・ 「認可時又は届出時」には 設置認可時又は届出時の授業科目全て(兼任、兼任教員が担当する科目を含む。)を黒字で記入してください。その上で、各年度については、認可時又は届出時から変更となっている箇所は赤字としてください。
- ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目についても科目名の後ろに「(未開講)」として記入してください。
- ・ 1ページ目には認可時又は届出時と報告年度2つの表を記入してください。
- ・ 不要な年度(平成30年度開設であれば平成29年度)の表は適宜削除してください。(2つの表が1ページに表示されるようにしてください。)
- ・ 専門職大学等の場合、「実験、実習又は実技による授業科目」には「【※】」、「【臨地実務実習】」による授業科目には「【臨】」、「【連携実務演習】」による授業科目には「【連】」を授業科目の名称の右側に記入してください。

(1) ②授業科目表に関する変更内容

【令和2年度】

- ・ 「自然科学の基礎」の「兼任・兼任1」を「兼任・兼任0」に変更。
- ・ 「実用英語Ⅰ」、「実用英語Ⅱ」、「実用英語Ⅲ」の「兼任・兼任4」を「兼任・兼任3」に変更。
- ・ 「疾病と治療Ⅳ(泌尿器系・生殖器系・内分泌系)」の「教授1」を「教授0」に変更。
- ・ 「臨床検査学演習」の「教授3」を「教授1」に変更。
- ・ 「公衆衛生学」の「教授1」を「教授0」に変更。
- ・ 「実用医療英語」の「教授2」を「教授0」、「兼任・兼任0」を「兼任・兼任1」に変更。
- ・ 「看護学体験実習」の「准教授0」を「准教授1」、「助教10」を「助教8」に変更。
- ・ 「看護実践技術Ⅰ(日常生活における援助技術と判断)」、「看護実践技術Ⅱ(治療・処置における援助技術と判断)」、「看護実践技術Ⅲ(看護技術の統合)」、「ヘルスアセスメント」、「看護過程と看護方法論」の「准教授0」を「准教授1」、「助教0」を「助教1」に変更。
- ・ 「フィジカルアセスメント」の「教授1」を「教授0」、「准教授0」を「准教授1」、「助教0」を「助教1」に変更。
- ・ 「日常生活援助展開実習」の「准教授0」を「准教授1」、「講師1」を「講師3」、「助教10」を「助教8」に変更。
- ・ 「看護過程展開実習」の「助教10」を「助教8」に変更。
- ・ 「成人看護学概論」、「急性期看護論」の「教授0」を「教授1」、「准教授2」を「准教授1」に変更。
- ・ 「終末期看護論」の「教授0」を「教授1」、「准教授1」を「准教授0」に変更。
- ・ 「成人看護実践論」、「成人看護の探求」の「教授0」を「教授1」、「准教授2」を「准教授」に変更。
- ・ 「終末期看護学実習」、「老年看護学概論」の「教授0」を「教授1」、「准教授1」を「准教授0」に変更。
- ・ 「老年看護実践論」の「教授0」を「教授1」、「准教授2」を「准教授1」に変更。
- ・ 「母性看護学概論」の「教授1」を「教授0」に変更。
- ・ 「母性看護実践論」、「母性看護学実習」の「助教2」を「助教1」に変更。
- ・ 「在宅看護学概論」の「講師1」を「講師0」に変更。
- ・ 「在宅看護実践Ⅰ(在宅における看護技術と危機管理)」の「助教2」を「助教1」に変更。
- ・ 「在宅看護実践Ⅱ(地域におけるケアシステムと連携)」、「在宅看護学実習」の「講師1」を「講師0」に変更。
- ・ 「地域看護学概論」の「講師0」を「講師1」、「助教2」を「助教1」に変更。
- ・ 「自立支援教育論」、「疾病予防看護学」の「助教2」を「助教1」に変更。
- ・ 「看護研究の基礎」の「教授3」を「教授1」に変更。
- ・ 「英語論文のクリティーク」の「教授8」を「教授6」、「准教授8」を「准教授7」、「助教10」を「助教7」に変更。
- ・ 「卒業研究」の「教授8」を「教授6」、「助教10」を「助教7」、「兼任・兼任1」を「兼任・兼任0」に変更。
- ・ 「災害看護学」の「助教2」を「助教1」に変更。
- ・ 「看護学統合実習」の「教授4」を「教授5」、「講師7」を「講師4」、「助教10」を「助教7」に変更。
- ・ 「国際看護学Ⅰ」の「教授1」を「教授0」に変更。
- ・ 「NP論」、「看護政策論」の「兼任・兼任1」を「兼任・兼任0」に変更。

- (注) ・ 2(1)① 授業科目表に記入された各年度における変更内容(配当年次の変更、専任教員等の配置の変更、授業科目名の変更、新規科目の追加など)を箇条書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。
- ・ 変更内容には、授業科目の未開講や廃止については記入しないでください。
- ・ 不要な年度(平成30年度開設であれば平成29年度)の表は適宜削除してください。

(2) 授業科目数

設置時の計画				変更状況				備考
必修	選択	自由	計(A)	必修	選択	自由	計	
86	15	0	101	86	15		101	
科目	科目	科目	科目	科目	科目	科目	科目	科目
[]	[]	[]	[]	[]	[]	[]	[]	[]

- (注) ・ 未開講科目も含めた教育課程上の授業科目数を記入するとともに、[]内に、設置時の計画からの増減を記入してください。(記入例: 1科目減の場合: Δ1)

(3) 未開講科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	未開講の理由, 代替措置の有無
1						
2						
3						

- (注) ・ 配当年次に達しているにも関わらず、何らかの理由で未開講となっている授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目については記入しないでください。
 - ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」と修正して記入してください。
 - ・ 専門職大学等の場合は、「一般・専門」を「基礎、展開、職業専門、総合」と修正して記入してください。

(4) 廃止科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	廃止の理由, 代替措置の有無
1						
2						
3						

- (注) ・ 設置時の計画にあり、何らかの理由で廃止（教育課程から削除）した授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」として記入してください。
 - ・ 専門職大学等の場合は、「一般・専門」を「基礎、展開、職業専門、総合」と修正して記入してください。

(5) 授業科目を未開講又は廃止としたことに係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

該当なし

- (注) ・ 授業科目を未開講又は廃止としたことによる学生の履修への影響に関する大学の所見、学生への周知方法、今後の方針などを可能な限り具体的に記入してください。

(6) 「設置時の計画の授業科目数の計」に対する「未開講科目と廃止科目の計」の割合

$$\frac{\text{未開講科目 (3) と廃止科目 (4) の計}}{\text{設置時の計画の授業科目数の計 (A)}} = \frac{0}{101} = \boxed{}\%$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。
- ・ 「未開講科目と廃止科目の計」が、「(3) 未開講科目」と「(4) 廃止科目」の合計数となるように留意してください。

3 施設・設備の整備状況、経費

区 分		内 容				備考	
(1) 校地等	区 分	専 用	共 用	共用する他の学校等の専用	計	大学全体 新学部設置に係る 借用面積:12,098㎡ 借用期間:43年	
	校舎敷地	37,384 ㎡	0㎡	0㎡	37,384 ㎡		
	運動場用地	10,503 ㎡	0㎡	0㎡	10,503 ㎡		
	小 計	47,887 ㎡	0㎡	0㎡	47,887 ㎡		
	そ の 他	4,597 ㎡	0㎡	0㎡	4,597 ㎡		
	合 計	52,483 ㎡	0㎡	0㎡	52,483 ㎡		
(2) 校 舎		専 用	共 用	共用する他の学校等の専用	計	大学全体 新学部設置に係る 借用面積:16,130㎡ 借用期間:43年	
		53,093 ㎡ (53,093 ㎡)	0㎡ (0 ㎡)	0㎡ (0 ㎡)	53,093 ㎡ (53,093 ㎡)		
(3) 教 室 等	講 義 室	演 習 室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設	届出学部全体	
	8室	13室	5室	1室 (補助職員 0人)	0室 (補助職員 0人)		
(4) 専任教員研究室	新設学部等の名称			室 数			
	東が丘看護学部 看護学科			44 室			
(5) 図書・設備	新設学部等の名称	図 書	学術雑誌		視聴覚資料	機械・器具	標 本
		〔うち外国書〕	〔うち外国書〕	電子ジャーナル			
	冊	種	〔うち外国書〕	点	点	点	
	東が丘看護学部	20,000 [200] (16,156 [168])	93 [18] (93 [18])	3,580 [2,240] (3,580 [2,240])	410 (354)	3,061 (2,781)	95 (95)
計	20,000 [200] (16,156 [168])	93 [18] (93 [18])	3,580 [2,240] (3,580 [2,240])	410 (354)	3061 (2,781)	95 (95)	
(6) 図 書 館	面 積		閲覧座席数		収 納 可 能 冊 数		届出学部全体
	286㎡		85席		20000冊		
(7) 体 育 館	面 積		体育館以外のスポーツ施設の概要				
	582㎡		市 川 運 動 場 桜 グ ラ ウ ン ド (多目的屋外運動場)				
(8) 経費の見積り及び維持方法の概要	区 分	開設年度	完成年度	区 分	開設前年度	開設年度	完成年度
		教員1人当り研究費等	400千円	400千円	図書購入費	10,000千円	15,000千円
	共 同 研 究 費 等	7,000千円	7,000千円	設備購入費	40,000千円	25,000千円	25,000千円
	学生1人当り納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次
		1,850千円	1,600千円	1,600千円	1,550千円	-	-
	学生納付金以外の維持方法の概要		私立大学経常経費補助金				

- (注) ・ 設置時の計画を、申請書の様式第2号(その1の1)に準じて作成してください。(複数のキャンパスに分かれている場合、複数の様式に分ける必要はありません。なお、「(1)校地等」及び「(2)校舎」は大学全体の数字を、その他の項目はAC対象学部等の数値を記入してください。)
- ・ 運動場用地が校舎敷地と別地にある場合は、その旨(所要時間・距離等)を「備考」に記入してください。
 - ・ 「(5)図書・設備」については、上段に完成年度の予定数値を、下段には令和2年5月1日現在の数値を記入してください。
 - ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更のあったものについては、変更部分を赤字で見え消し修正するとともに、その理由及び報告年度「(2)」を「備考」に赤字で記入してください。
 なお、昨年度の報告において赤字で見え消しした部分については、見え消しのまま黒字にしてください。
 - ・ 校舎等建物の計画の変更(校舎又は体育館の総面積の減少、建築計画の遅延)がある場合には、「建築等設置計画変更書」を併せて提出してください。
 なお、昨年度の報告において赤字で見え消しした部分については、黒字で記入してください。
 - ・ 国立大学については「(8)経費の見積り及び維持方法の概要」は記載不要です。

4. 既設大学等の状況

大学等の名称										備考	
既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	平均入学定員超過率	令和2年度入学定員超過率	定員変更年度(AC期間の学科のみ)	開設年度	所在地	
東京医療保健大学											
医療保健学部		280		1120		1.01	1.05				
看護学科	4	100		400	学士(看護学)	1.17	1.04		平成17年度	五反田キャンパス 東京都品川区東五反田4-1-17	
医療栄養学科	4	100		400	学士(栄養学)	0.99	0.98		平成17年度	世田谷キャンパス 東京都世田谷区世田谷3-11-3	
医療情報学科	4	80		320	学士(医療情報学)	0.85	1.15		平成17年度	世田谷キャンパス 東京都世田谷区世田谷3-11-3	
東が丘・立川看護学部		—		—							※平成32年度より学生募集停止(東が丘・立川看護学科看護学科)
看護学科 臨床看護学コース	4	—		—	学士(看護学)				平成22年度	国立病院機構キャンパス 東京都目黒区東が丘2-5-1	
看護学科 災害看護学コース	4	—		—	学士(看護学)				平成28年度	国立病院機構 立川キャンパス 東京都立川市稲荷町3258	
東が丘看護学部		100		400							
看護学科	4	100		400	学士(看護学)	1.15	1.15		令和2年度	国立病院機構キャンパス 東京都目黒区東が丘2-5-1	
立川看護学部		100		400							
看護学科	4	100		400	学士(看護学)	1.18	1.18		令和2年度	国立病院機構立川キャンパス 東京都立川市稲荷町2258	
千葉看護学部		100		400							
看護学科	4	100		400	学士(看護学)	1.09	1.15		平成30年度	船橋キャンパス 千葉県船橋市麻神町西1-1042-2	
和歌山看護学部		90		360							
看護学科	4	90		360	学士(看護学)	1.14	1.15		平成30年度	滝澤キャンパス 和歌山県和歌山市東原ノ上7-3	
大学院											
医療保健学研究科 医療保健学専攻 (修士課程)	2	25		50	修士 (看護学) (医療情報学) (医療栄養学) (加齢学) (高齢看護学) (高齢看護安全学)	1.18	1.08		平成19年度	五反田キャンパス 東京都品川区東五反田4-1-17	
医療保健学専攻 (博士課程)	3	4		12	博士 (感染制御学) (围手術看護安全学)	1.75	1.75		平成21年度	五反田キャンパス 東京都品川区東五反田4-1-17	
看護学研究科 看護学専攻 (修士課程)	2	30		60	修士 (看護学) (助産学)	1.05	1.03		平成22年度	国立病院機構キャンパス 東京都目黒区東が丘2-5-1	
看護学研究科 看護学専攻 (博士課程)	3	2		6	博士 (看護学)	1.50	0.50		平成26年度	国立病院機構キャンパス 東京都目黒区東が丘2-5-1	
和歌山看護学研究科 看護学専攻 (修士課程)	2	12		24	修士 (看護学)		1.00		令和2年度	日清和歌山医療センターキャンパス 和歌山県和歌山市小松原4-20	
大学等の名称 ○ ○ 短期大学											
備考											
該当なし											

(注) ・本調査の対象となっている大学等の設置者が既に設置している全ての大学(大学院含む)、短期大学及び高等専門学校についてそれぞれの学校ごとに、報告年度の5月1日現在の状況を記入してください。
(専攻科及び別科を除く)。
・学部の学科または研究科の専攻等、「入学定員を定めている組織」ごとに全ての組織を記入してください。
※「入学定員を定めている組織」ことには、課程認定等によりコース・専攻に入学定員を定めている場合を含めず、履修上の区分としてコース・専攻を設けている場合は含めません。
・本年度AC対象となる学部等については、必ず下線を引いてください。
・「平均入学定員超過率」には、報告年度(令和2年度)から起算した修業年限に相当する期間の入学定員超過率の平均を記載してください。
・「備考」の欄については、学年進行中の入学定員の増減や学生募集停止など、収容定員に影響のある情報を記入してください。

5 教員組織の状況

<東が丘看護学部 看護学科>

(1) -① 担当教員表

【認可時又は届出時】

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月>
		担当授業科目名
専任	教授 (学部長)	山西 文子 (73) <平成32年4月> 修士(人間科学)
		政策医療論 医療安全学 看護管理学 国際看護学Ⅱ 英語論文のクリティーク 看護学統合実習 チーム医療論 看護政策論 NP論 卒業研究
専任	教授	今井 秀樹 (58) <平成32年4月> 博士(保健学)
		公衆衛生学 臨床検査学演習 実用医療英語 看護研究の基礎 英語論文のクリティーク 卒業研究
専任	教授	小野 孝二 (53) <平成32年4月> 博士(工学)
		自然科学の基礎 臨床検査学演習 看護研究の基礎 英語論文のクリティーク 卒業研究
専任	教授	齋藤 益子 (71) <平成32年4月> 博士(医学)
		母性看護学概論 国際看護学Ⅰ 英語論文のクリティーク 卒業研究

【令和2年度】

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月>
		担当授業科目名
専任	教授 (学部長)	山西 文子 (74) <令和2年4月> 修士(人間科学)
		政策医療論 医療安全学 看護管理学 国際看護学Ⅱ 英語論文のクリティーク 看護学統合実習 チーム医療論 看護政策論 NP論 卒業研究
専任	教授	小野 孝二 (54) <令和2年4月> 博士(工学)
		自然科学の基礎 臨床検査学演習 看護研究の基礎 英語論文のクリティーク 卒業研究

専任・兼担・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞
		担当授業科目名
専任	教授	田中 留伊 (44) ＜平成32年4月＞ 博士(医科学)
		臨床コミュニケーション論 精神看護学概論 精神看護実践論 障害者看護論 英語論文のクリティーク 精神看護学実習 看護学統合実習 卒業研究
専任	教授	中島 美津子 (50) ＜平成32年4月＞ 博士(看護科学)
		小児看護学概論 小児看護実践論 英語論文のクリティーク 小児看護学実習 看護学統合実習 卒業研究
専任	教授	松山 友子 (60) ＜平成32年4月＞ 博士(看護学)
		看護学概論 看護実践技術論Ⅰ (日常生活における援助技術と判断) ヘルスアセスメント 看護学体験実習 看護実践技術論Ⅱ (治療・処置における援助技術と判断) 看護実践技術論Ⅲ (看護技術の統合) フィジカルアセスメント 看護過程と看護方法論 日常生活援助展開実習 看護過程展開実習 英語論文のクリティーク 看護学統合実習 看護教育学 卒業研究

専任・兼担・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞
		担当授業科目名
専任	教授	田中 留伊 (45) ＜令和2年4月＞ 博士(医科学)
		臨床コミュニケーション論 精神看護学概論 精神看護実践論 障害者看護論 英語論文のクリティーク 精神看護学実習 看護学統合実習 卒業研究
専任	教授	中島 美津子 (51) ＜令和2年4月＞ 博士(看護科学)
		小児看護学概論 小児看護実践論 英語論文のクリティーク 小児看護学実習 看護学統合実習 卒業研究
専任	教授	松山 友子 (61) ＜令和2年4月＞ 博士(看護学)
		看護学概論 看護実践技術論Ⅰ (日常生活における援助技術と判断) ヘルスアセスメント 看護学体験実習 看護実践技術論Ⅱ (治療・処置における援助技術と判断) 看護実践技術論Ⅲ (看護技術の統合) 看護過程と看護方法論 日常生活援助展開実習 看護過程展開実習 英語論文のクリティーク 看護学統合実習 看護教育学 卒業研究

専任・兼担・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞
		担当授業科目名
専任	准教授	竹内 朋子 (44) ＜平成32年4月＞ 博士(保健学)
		成人看護学概論 老年看護学概論 老年看護実践論 急性期看護論 成人看護実践論 終末期看護論 終末期看護学実習 成人看護の探求 英語論文のクリティーク 看護学統合実習 卒業研究
専任	准教授	朝澤 恭子 (52) ＜平成32年4月＞ 博士(看護学)
		疾病と治療IV (泌尿器系・生殖器系・内分泌系) 国際看護学 I 母性看護学概論 母性看護実践論 英語論文のクリティーク 母性看護学実習 看護学統合実習 卒業研究
専任	准教授	岩本 郁子 (66) ＜平成32年4月＞ 修士(人間科学)
		看護倫理 看護理論 英語論文のクリティーク 看護学統合実習 卒業研究
専任	准教授	金子 あけみ (61) ＜平成32年4月＞ 博士(看護学)
		疾病と治療IV (泌尿器系・生殖器系・内分泌系) 看護職とキャリア形成 卒業研究

専任・兼担・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞
		担当授業科目名
専任	教授	竹内 朋子 (45) ＜令和2年4月＞ 博士(保健学)
		成人看護学概論 老年看護学概論 老年看護実践論 急性期看護論 成人看護実践論 終末期看護論 終末期看護学実習 成人看護の探求 英語論文のクリティーク 看護学統合実習 卒業研究
専任	准教授	朝澤 恭子 (53) ＜令和2年4月＞ 博士(看護学)
		疾病と治療IV (泌尿器系・生殖器系・内分泌系) 国際看護学 I 母性看護学概論 母性看護実践論 英語論文のクリティーク 母性看護学実習 看護学統合実習 卒業研究
専任	准教授	岩本 郁子 (67) ＜令和2年4月＞ 修士(人間科学)
		看護倫理 看護理論 英語論文のクリティーク 看護学統合実習 卒業研究
専任	准教授	金子 あけみ (62) ＜令和2年4月＞ 博士(看護学)
		疾病と治療IV (泌尿器系・生殖器系・内分泌系) 看護職とキャリア形成 卒業研究

専任・兼担・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞
		担当授業科目名
専任	准教授	玄 順烈 (59) ＜平成32年4月＞ 修士(看護学)
		小児看護学概論 小児看護実践論 英語論文のクリティーク 小児看護学実習 看護学統合実習 卒業研究
専任	准教授	小宇田 智子 (44) ＜平成32年4月＞ 博士(医学)
		自然科学の基礎 臨床検査学演習 ボランティア論 臨床薬理学演習 看護研究の基礎 英語論文のクリティーク 卒業研究
専任	准教授	佐藤 潤 (40) ＜平成32年4月＞ 修士(保健学)
		保健医療福祉システム論 災害看護学 疾病予防看護学 自立支援教育論 地域看護学概論 看護研究の基礎 在宅看護学概論 在宅看護実践論Ⅰ (在宅における看護技術と危機管理) 英語論文のクリティーク 在宅看護学実習 看護学統合実習 卒業研究
専任	准教授	平出 美栄子 (60) ＜平成32年4月＞ 博士(経済学)
		母性看護学概論 英語論文のクリティーク 卒業研究

専任・兼担・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞
		担当授業科目名
専任	准教授	玄 順烈 (60) ＜令和2年4月＞ 修士(看護学)
		小児看護学概論 小児看護実践論 英語論文のクリティーク 小児看護学実習 看護学統合実習 卒業研究
専任	准教授	小宇田 智子 (45) ＜令和2年4月＞ 博士(医学)
		自然科学の基礎 臨床検査学演習 ボランティア論 臨床薬理学演習 看護研究の基礎 英語論文のクリティーク 卒業研究
専任	准教授	佐藤 潤 (41) ＜令和2年4月＞ 修士(保健学)
		保健医療福祉システム論 災害看護学 疾病予防看護学 自立支援教育論 地域看護学概論 看護研究の基礎 在宅看護学概論 在宅看護実践論Ⅰ (在宅における看護技術と危機管理) 英語論文のクリティーク 在宅看護学実習 看護学統合実習 卒業研究
専任	准教授	平出 美栄子 (61) ＜令和2年4月＞ 博士(経済学)
		母性看護学概論 英語論文のクリティーク 卒業研究

専任・兼担・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞
		担当授業科目名
専任	准教授	松本 和史 (44) ＜平成32年4月＞ 修士(看護学)
		成人看護学概論 老年看護実践論 慢性期看護論 家族看護学 急性期看護論 成人看護実践論 成人看護の探求 慢性期看護学実習 英語論文のクリティーク 看護学統合実習 卒業研究
専任	講師	浦中 桂一 (41) ＜平成32年4月＞ 修士(看護学)
		フィジカルアセスメント 英語論文のクリティーク 看護学統合実習 卒業研究
専任	講師	加藤 江里子 (52) ＜平成32年4月＞ 博士(看護学)
		英語論文のクリティーク 看護学統合実習 卒業研究

専任・兼担・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞
		担当授業科目名
専任	准教授	松本 和史 (45) ＜令和2年4月＞ 修士(看護学)
		成人看護学概論 老年看護実践論 慢性期看護論 家族看護学 急性期看護論 成人看護実践論 成人看護の探求 慢性期看護学実習 英語論文のクリティーク 看護学統合実習 卒業研究
専任	准教授	内山 孝子 (53) ＜令和2年4月＞ 博士(看護学)
		看護実践技術論Ⅰ (日常生活における援助技術と判断) 看護実践技術論Ⅱ (治療・処置における援助技術と判断) 看護実践技術論Ⅲ (看護技術の統合) ヘルスアセスメント フィジカルアセスメント 看護過程と看護方法論 看護学体験実習 日常生活援助展開実習
専任	講師	浦中 桂一 (42) ＜令和2年4月＞ 修士(看護学)
		フィジカルアセスメント 英語論文のクリティーク 看護学統合実習 卒業研究

専任・兼担・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月>
		担当授業科目名
専任	講師	高橋 智子 (37) <平成32年4月> 博士(看護学)
		看護実践技術論Ⅰ (日常生活における援助技術と判断) ヘルスアセスメント 看護学体験実習 看護実践技術論Ⅱ (治療・処置における援助技術と判断) 看護実践技術論Ⅲ (看護技術の統合) 日常生活援助展開実習 フィジカルアセスメント 看護過程と看護方法論 看護過程展開実習 英語論文のクリティーク 看護学統合実習 卒業研究
専任	講師	中村 裕美 (41) <平成32年4月> 修士(看護学)
		臨床コミュニケーション論 精神看護学概論 精神看護実践論 障害者看護論 精神看護学実習 英語論文のクリティーク 看護学統合実習 卒業研究
専任	講師	長島 真由美 (47) <平成32年4月> 修士(経営学)
		災害看護学 疾病予防看護学 自立支援教育論 在宅看護学概論 在宅看護実践論Ⅰ (在宅における看護技術と危機管理) 英語論文のクリティーク 在宅看護実践論Ⅱ (地域におけるケアシステムと連携) 在宅看護学実習 看護学統合実習 卒業研究

専任・兼担・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月>
		担当授業科目名
専任	講師	高橋 智子 (38) <令和2年4月> 博士(看護学)
		看護実践技術論Ⅰ (日常生活における援助技術と判断) ヘルスアセスメント 看護学体験実習 看護実践技術論Ⅱ (治療・処置における援助技術と判断) 看護実践技術論Ⅲ (看護技術の統合) 日常生活援助展開実習 フィジカルアセスメント 看護過程と看護方法論 看護過程展開実習 英語論文のクリティーク 看護学統合実習 卒業研究
専任	講師	中村 裕美 (42) <令和2年4月> 修士(看護学)
		臨床コミュニケーション論 精神看護学概論 精神看護実践論 障害者看護論 精神看護学実習 英語論文のクリティーク 看護学統合実習 卒業研究
専任	講師	

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月>
		担当授業科目名
専任	講師	原口 昌宏 (36) <平成32年4月> 修士(看護学)
		成人看護学概論 老年看護実践論 成人看護実践論 急性期看護論 急性期看護学実習 成人看護の探求 英語論文のクリティーク 看護学統合実習 卒業研究
専任	講師	松田 謙一 (40) <平成32年4月> 修士(看護学)
		老年看護学概論 老年看護実践論 老年生活支援実習 急性期看護論 成人看護実践論 老年看護学実習 成人看護の探求 英語論文のクリティーク 看護学統合実習 卒業研究
専任	助教	加藤 知子 (40) <平成32年4月> 博士(看護学)
		看護学体験実習 日常生活援助展開実習 看護過程展開実習 英語論文のクリティーク 看護学統合実習 卒業研究

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月>
		担当授業科目名
専任	講師	原口 昌宏 (37) <令和2年4月> 修士(看護学)
		成人看護学概論 老年看護実践論 成人看護実践論 急性期看護論 急性期看護学実習 成人看護の探求 英語論文のクリティーク 看護学統合実習 卒業研究
専任	講師	松田 謙一 (41) <令和2年4月> 修士(看護学)
		老年看護学概論 老年看護実践論 老年生活支援実習 急性期看護論 成人看護実践論 老年看護学実習 成人看護の探求 英語論文のクリティーク 看護学統合実習 卒業研究
専任	講師	加藤 知子 (41) <令和2年4月> 博士(看護学)
		日常生活援助展開実習 英語論文のクリティーク 看護学統合実習 卒業研究

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月>
		担当授業科目名
専任	助教	駒田 真由子 (39) <平成32年4月> 修士(公衆衛生学)
		看護学体験実習 日常生活援助展開実習 看護過程展開実習 地域看護学概論 災害看護学 疾病予防看護学 自立支援教育論 在宅看護実践論Ⅰ (在宅における看護技術と危機管理) 英語論文のクリティーク 在宅看護実践論Ⅱ (地域におけるケアシステムと連携) 在宅看護学実習 看護学統合実習 卒業研究
専任	助教	井本 由希子 (45) <平成32年4月> 修士(保健学)
		看護学体験実習 日常生活援助展開実習 老年看護実践論 看護過程展開実習 老年生活支援実習 成人看護実践論 英語論文のクリティーク 老年看護学実習 看護学統合実習 卒業研究
専任	助教	小嶋 奈都子 (40) <平成32年4月> 修士(看護学)
		看護学体験実習 日常生活援助展開実習 看護過程展開実習 母性看護実践論 英語論文のクリティーク 母性看護学実習 看護学統合実習 卒業研究

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月>
		担当授業科目名
専任	講師	駒田 真由子 (40) <令和2年4月> 修士(公衆衛生学)
		日常生活援助展開実習 地域看護学概論 災害看護学 疾病予防看護学 自立支援教育論 在宅看護実践論Ⅰ (在宅における看護技術と危機管理) 英語論文のクリティーク 在宅看護実践論Ⅱ (地域におけるケアシステムと連携) 在宅看護学実習 看護学統合実習 卒業研究
専任	助教	井本 由希子 (46) <令和2年4月> 修士(保健学)
		日常生活援助展開実習 老年看護実践論 老年生活支援実習 成人看護実践論 英語論文のクリティーク 老年看護学実習 看護学統合実習 卒業研究
専任	助教	小嶋 奈都子 (41) <令和2年4月> 修士(看護学)
		看護学体験実習 日常生活援助展開実習 看護過程展開実習 母性看護実践論 英語論文のクリティーク 母性看護学実習 看護学統合実習 卒業研究

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月>
		担当授業科目名
専任	助教	篠原 枝里子 (36) <平成32年4月> 博士(看護学)
		看護学体験実習 日常生活援助展開実習 看護過程展開実習 母性看護実践論 英語論文のクリティーク 母性看護学実習 看護学統合実習 卒業研究
専任	助教	嶋谷 圭一 (37) <平成32年4月> 修士(医科学)
		看護学体験実習 日常生活援助展開実習 看護過程展開実習 地域看護学概論 災害看護学 疾病予防看護学 自立支援教育論 在宅看護実践論Ⅰ (在宅における看護技術と危機管理) 英語論文のクリティーク 在宅看護実践論Ⅱ (地域におけるケアシステムと連携) 在宅看護学実習 看護学統合実習 卒業研究
専任	助教	菅原 裕美 (36) <平成32年4月> 博士(看護科学)
		看護学体験実習 日常生活援助展開実習 臨床コミュニケーション論 看護過程展開実習 精神看護学概論 精神看護実践論 障害者看護論 精神看護学実習 英語論文のクリティーク 看護学統合実習 卒業研究

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月>
		担当授業科目名
専任	助教	嶋谷 圭一 (38) <令和2年4月> 修士(医科学)
		看護学体験実習 日常生活援助展開実習 看護過程展開実習 地域看護学概論 災害看護学 疾病予防看護学 自立支援教育論 在宅看護実践論Ⅰ (在宅における看護技術と危機管理) 英語論文のクリティーク 在宅看護実践論Ⅱ (地域におけるケアシステムと連携) 在宅看護学実習 看護学統合実習 卒業研究
専任	助教	菅原 裕美 (37) <令和2年4月> 博士(看護科学)
		日常生活援助展開実習 臨床コミュニケーション論 看護過程展開実習 精神看護学概論 精神看護実践論 障害者看護論 精神看護学実習 英語論文のクリティーク 看護学統合実習 卒業研究

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月>
		担当授業科目名
専任	助教	早坂 奈美 (38) <平成32年4月> 修士(看護学)
		看護学体験実習 日常生活援助展開実習 看護過程展開実習 英語論文のクリティーク 看護学統合実習 卒業研究
専任	助教	日高 未希恵 (45) <平成32年4月> 修士(看護学)
		看護学体験実習 日常生活援助展開実習 臨床検査学演習 公衆衛生学 看護過程展開実習 英語論文のクリティーク 看護学統合実習 卒業研究
専任	助教	山田 恵子 (50) <平成32年4月> 修士(看護学)
		看護学体験実習 日常生活援助展開実習 看護過程展開実習 小児看護学概論 小児看護実践論 英語論文のクリティーク 小児看護学実習 看護学統合実習 卒業研究

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月>
		担当授業科目名
専任	助教	早坂 奈美 (39) <令和2年4月> 修士(看護学)
		看護学体験実習 日常生活援助展開実習 看護過程展開実習 英語論文のクリティーク 看護学統合実習 卒業研究
専任	助教	日高 未希恵 (46) <令和2年4月> 博士(看護学)
		看護学体験実習 日常生活援助展開実習 臨床検査学演習 公衆衛生学 看護過程展開実習 英語論文のクリティーク 看護学統合実習 卒業研究
専任	助教	山田 恵子 (51) <令和2年4月> 博士(看護学)
		看護学体験実習 日常生活援助展開実習 看護過程展開実習 小児看護学概論 小児看護実践論 英語論文のクリティーク 小児看護学実習 看護学統合実習 卒業研究
専任	助教	鬼澤 宏美 (43) <令和2年4月> 修士(看護学)
		看護学体験実習 看護過程展開実習
専任	助教	デッケルト 博子 (42) <令和2年4月> 修士(国際協力学)
		看護学体験実習 看護過程展開実習

専任・兼担・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞
		担当授業科目名
兼担	教授	草間 朋子 (78) ＜平成35年4月＞ 博士(医学) 看護政策論 NP論 卒業研究
兼担	准教授	高木 晴良 (59) ＜平成32年4月＞ 学士(保健学) 自然科学の基礎 医療・看護情報学の基礎 ボランティア論
兼担	講師	堀田 昇吾 (34) ＜平成33年4月＞ 博士(看護学) 公衆衛生学 ボランティア論 医療安全学
兼担	講師	山本 伸裕 (50) ＜平成32年4月＞ 博士(文学) 人間関係論 哲学 倫理学
兼担	教授	豊田 英敏 (69) ＜平成33年4月＞ 修士(教育学) 教育学

専任・兼担・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞
		担当授業科目名
専任	助教	ハーネド 明香 (35) ＜令和2年4月＞ 修士(看護学) 看護実践技術論Ⅰ (日常生活における援助技術と判断) 看護実践技術論Ⅱ (治療・処置における援助技術と判断) 看護実践技術論Ⅲ (看護技術の統合) ヘルスアセスメント フィジカルアセスメント 看護過程と看護方法論 看護学体験実習 看護過程展開実習
兼担	准教授	高木 晴良 (60) ＜令和2年4月＞ 学士(保健学) 医療・看護情報学の基礎 ボランティア論
兼担	講師	堀田 昇吾 (35) ＜令和3年4月＞ 博士(看護学) 公衆衛生学 ボランティア論 医療安全学
兼担	講師	山本 伸裕 (51) ＜令和2年4月＞ 博士(文学) 哲学 倫理学
兼任	講師	繁田真蘭 (39) ＜令和2年4月＞ 博士(日本語日本文化) 人間関係論
兼担	教授	豊田 英敏 (70) ＜令和3年4月＞ 修士(教育学) 教育学

専任・兼担・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月>
		担当授業科目名
兼担	講師	高野 海哉 (46) <平成32年4月> 博士(感染制御学)
		解剖生理学Ⅰ 解剖生理学Ⅱ
兼任	講師	大谷 智子 (43) <平成32年4月> 博士(心理学)
		心理学
兼任	講師	大倉 健宏 (54) <平成32年4月> 博士(社会学)
		社会学
兼任	講師	望月 重信 (77) <平成32年4月> 修士(教育学)
		文化人類学
兼任	講師	貝谷 伸 (65) <平成32年4月> 学士(法学)
		法学
兼任	講師	高橋 昌一郎 (61) <平成32年4月> 修士(哲学)
		論理学
兼任	講師	根本 研 (48) <平成32年4月> 修士(体育科学)
		スポーツ科学
兼任	講師	仮屋 美弥乃 (56) <平成32年4月> 学士(理学)
		情報リテラシー

専任・兼担・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月>
		担当授業科目名
兼担	講師	高野 海哉 (47) <令和2年4月> 博士(感染制御学)
		解剖生理学Ⅰ 解剖生理学Ⅱ
兼任	講師	大谷 智子 (44) <令和2年4月> 博士(心理学)
		心理学
兼任	講師	大倉 健宏 (55) <令和2年4月> 博士(社会学)
		社会学
兼任	講師	望月 重信 (78) <令和2年4月> 修士(教育学)
		文化人類学
兼任	講師	貝谷 伸 (66) <令和2年4月> 学士(法学)
		法学
兼任	講師	高橋 昌一郎 (62) <令和2年4月> 修士(哲学)
		論理学
兼任	講師	根本 研 (49) <令和2年4月> 修士(体育科学)
		スポーツ科学
兼任	講師	仮屋 美弥乃 (57) <令和2年4月> 学士(理学)
		情報リテラシー

専任・兼担・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月>
		担当授業科目名
兼任	講師	目黒 沙也香 (31) <平成32年4月> 修士(学術)
		実用英語Ⅰ 実用英語Ⅱ 実用英語Ⅲ
兼任	講師	阪口 慧 (31) <平成32年4月> 修士(学術)
		実用英語Ⅰ 実用英語Ⅱ 実用英語Ⅲ
兼任	講師	榊原 知樹 (54) <平成32年4月> 修士(学術)
		実用英語Ⅰ 実用英語Ⅱ
兼任	講師	何 欣琪 (28) <平成32年4月> 修士(学術)
		実用英語Ⅰ 実用英語Ⅱ 実用英語Ⅲ
兼任	講師	高橋 杏紗 (29) <平成32年4月> 修士(学術)
		実用英語Ⅲ
兼任	講師	李克城 (57) <平成32年4月> 修士(商学)
		中国語
兼任	講師	武田 祐治 (48) <平成32年4月> 学士(文学)
		スペイン語
兼任	講師	大島 久二 (67) <平成32年4月> 博士(医学)
		医学概論

専任・兼担・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月>
		担当授業科目名
兼任	講師	目黒 沙也香 (32) <令和2年4月> 修士(学術)
		実用英語Ⅰ 実用英語Ⅱ 実用英語Ⅲ
兼任	講師	何 欣琪 (29) <令和2年4月> 修士(学術)
		実用英語Ⅰ 実用英語Ⅱ 実用英語Ⅲ
兼任	講師	高橋 杏紗 (30) <令和2年4月> 修士(学術)
		実用英語Ⅲ 実用英語Ⅰ 実用英語Ⅱ
兼任	講師	李克城 (58) <令和2年4月> 修士(商学)
		中国語
兼任	講師	武田 祐治 (49) <令和2年4月> 学士(文学)
		スペイン語

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月>
		担当授業科目名
兼任	講師	前島 新史 (51) <平成32年4月> 博士(医学)
		病理学
兼任	講師	吉川 邦衛 (74) <平成32年4月> 博士(薬学)
		生化学
兼任	講師	宇田川 悦子 (70) <平成32年4月> 博士(医学)
		微生物学
兼任	講師	谷地 豊 (58) <平成32年4月> 修士(薬学)
		薬理学
兼任	講師	林 茂樹 (75) <平成32年4月> 博士(医学)
		疾病と治療 I (呼吸器系・消化器系)
兼任	講師	小山田 吉孝 (55) <平成32年4月> 博士(医学)
		疾病と治療 I (呼吸器系・消化器系)
兼任	講師	樫山 幸彦 (58) <平成32年4月> 博士(医学)
		疾病と治療 II (血液系・循環器系)

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月>
		担当授業科目名
兼任	講師	新木一弘 (61) <令和2年4月> 学士(医学)
		医学概論
兼任	講師	前島 新史 (52) <令和2年4月> 博士(医学)
		病理学
兼任	講師	五十嵐麻希 (40) <令和2年4月> 博士(食品栄養学)
		生化学
兼任	講師	宇田川 悦子 (71) <令和2年4月> 博士(医学)
		微生物学
兼任	講師	谷地 豊 (59) <令和2年4月> 修士(薬学)
		薬理学
兼任	講師	林 茂樹 (76) <令和2年4月> 博士(医学)
		疾病と治療 I (呼吸器系・消化器系)
兼任	講師	小山田 吉孝 (56) <令和2年4月> 博士(医学)
		疾病と治療 I (呼吸器系・消化器系)
兼任	講師	樫山 幸彦 (59) <令和2年4月> 博士(医学)
		疾病と治療 II (血液系・循環器系)

専任・兼担・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞
		担当授業科目名
兼任	講師	横山 明弘 (53) ＜平成32年4月＞ 博士(医学)
		疾病と治療Ⅱ (血液系・循環器系)
兼任	講師	新田 功 (67) ＜平成33年4月＞ 博士(経済学)
		統計学
兼任	講師	辻 泰弘 (64) ＜平成33年4月＞ 学士(教養)
		社会保障制度概論 保健医療福祉システム論
兼任	講師	古川 夏樹 (56) ＜平成33年4月＞ 学士(政治学)
		医療と法 (看護関係法規)
兼任	講師	新井 公人 (65) ＜平成33年4月＞ 博士(医学)
		疾病と治療Ⅲ (神経系・骨筋系)
兼任	講師	森岡 秀夫 (57) ＜平成33年4月＞ 博士(医学)
		疾病と治療Ⅲ (神経系・骨筋系)
兼任	講師	尾藤 誠司 (54) ＜平成33年4月＞ 修士(科学)
		疾病と治療Ⅴ (感覚器系・統合)
兼任	講師	樋山 光教 (64) ＜平成33年4月＞ 学士(医学)
		疾病と治療Ⅵ (精神系)
兼任	講師	篠島 良介 (54) ＜平成33年4月＞ 短期大学士(食物栄養学)
		臨床栄養学演習

専任・兼担・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞
		担当授業科目名
兼任	講師	横山 明弘 (54) ＜令和2年4月＞ 博士(医学)
		疾病と治療Ⅱ (血液系・循環器系)
兼任	講師	新田 功 (68) ＜令和3年4月＞ 博士(経済学)
		統計学
兼任	講師	辻 泰弘 (65) ＜令和3年4月＞ 学士(教養)
		社会保障制度概論 保健医療福祉システム論
兼任	講師	古川 夏樹 (57) ＜令和3年4月＞ 学士(政治学)
		医療と法 (看護関係法規)
兼任	講師	新井 公人 (66) ＜令和3年4月＞ 博士(医学)
		疾病と治療Ⅲ (神経系・骨筋系)
兼任	講師	森岡 秀夫 (58) ＜令和3年4月＞ 博士(医学)
		疾病と治療Ⅲ (神経系・骨筋系)
兼任	講師	尾藤 誠司 (55) ＜令和3年4月＞ 修士(科学)
		疾病と治療Ⅴ (感覚器系・統合)
兼任	講師	樋山 光教 (65) ＜令和3年4月＞ 学士(医学)
		疾病と治療Ⅵ (精神系)
兼任	講師	篠島 良介 (55) ＜令和3年4月＞ 短期大学士(食物栄養学)
		臨床栄養学演習

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月>
		担当授業科目名
兼任	講師	大谷 華 (60) <平成33年4月> 修士(心理学)
		人間工学
専任	教授	酒井 一夫 (65) <平成32年4月> 博士(理学)
		臨床検査学演習 疾病と治療IV (泌尿器系・生臓器系・内分泌系) 実用医療英語 看護研究の基礎 英語論文のクリティーク 卒業研究

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月>
		担当授業科目名
兼任	講師	大谷 華 (61) <令和3年4月> 修士(心理学)
		人間工学
兼任	講師	酒井 一夫 (66) <令和2年4月> 博士(理学)
		実用医療英語

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ 認可申請書又は設置届出書の様式第3号(その2の1)に準じて作成してください。
 - ・ 「認可時又は届出時」には 設置認可時又は届出時の教員全て(兼任、兼任教員を含む。)を黒字で記入してください。その上で、認可時又は届出時から変更となっている箇所は太字の赤字としてください。
 - ・ 各欄の作成方法は「大学の設置等に係る提出書類作成の手引き」の「教員名簿」を確認してください。
 - ・ 年齢は、それぞれの年度の5月1日時点の満年齢を記入してください。
 - ・ 専任(専門職大学等は専、実専、実(研)、実み)、兼任、兼任の順に記入してください。
 - ・ 不要な年度(平成30年度開設であれば平成29年度)の表は適宜削除し、詰めてください。

(1) ②担当教員表に関する変更内容

【令和2年度】

○専任教員に関わる変更

- ・令和2年3月令井秀樹教授が就任、後任は同4月に着任した内山孝子准教授が専任就任
- ・令和2年3月長島真由美講師が就任、後任は同4月に着任したハーネド明香助教が専任就任
- ・令和2年3月齋藤益子教授が就任
- ・令和2年3月酒井一夫教授が就任、兼任講師に就任
- ・令和2年3月加藤江里子講師が就任
- ・令和2年3月藤原枝里子助教が就任
- ・令和2年4月鬼澤宏美助教が就任
- ・令和2年4月ザッケルト博士助教が就任
- ・令和2年4月竹内朋子准教授が教授に昇格
- ・令和2年4月加藤知子助教が講師に昇格
- ・令和2年4月駒田真由子助教が講師に昇格
- ・令和2年4月日高未希助教が博士（看護学）を取得
- ・令和2年4月山田恵子助教が博士（看護学）を取得

○兼任、兼任教員に関わる変更

- ・令和2年3月草間朋子教授が就任
- ・令和2年3月阪口憲兼任講師が就任
- ・令和2年3月榎原知樹兼任講師が就任
- ・令和2年3月大庭久二兼任講師が就任、後任は新木一弘兼任講師が就任し「医学概論」を担当
- ・令和2年3月吉川邦術兼任講師が就任、後任は五十嵐麻希兼任講師が就任し「生化学」を担当
- ・令和2年4月栗田真樹兼任講師が就任「人間関係論」を担当
- ・実用英語Ⅰ及び実用英語Ⅱを新たに高橋杏紗兼任講師が担当

- (注) ・ 変更内容を箇条書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。
- ・ 認可で設置された学部等の専任教員を変更する場合は、当該専任教員が授業を開始する前に必ず「専任教員採用等設置計画変更書」を提出し、大学設置・学校法人審議会による教員資格審査（AC教員審査）を受けてください。AC教員審査を受けずに専任教員として授業等を担当することは出来ません。
- ・ 「専任教員採用等変更書（AC）」を提出し「可」の教員判定を受けている場合は「〇年〇月教員審査済」と記入してください。
- なお、設置認可審査時に教員審査省略となっている場合は、「教員審査省略」と記入してください。
- ・ 不要な年度（平成30年度開設であれば平成29年度）の表は適宜削除してください。

(2) 専任教員数等

(2) - ① 設置基準上の必要専任教員数

完成年度時における 設置基準上の必要専 任教員数	うち、完成年度時に おける設置基準上の 必要教授数
12 名	6 名

(注) ・ 大学設置基準第十三条別表第一、短期大学設置基準第二十二條別表第一イにより算出される専任教員数を記入してください。

(2) - ② 専任教員等数【大学】

設置時の計画						現在（報告時）の状況					
教授	准教授	講師	助教	計 (A)	助手 (A')	教授	准教授	講師	助教	計 (B)	助手 (B')
8	9	7	10	34	6	6	9	7	12	34	5
(7)	(9)	(7)	(12)	(35)	(0)						
現在（報告時）の完成年度時の状況						現在（報告時）の完成年度時の計画					
教授	准教授	講師	助教	計 (C)	助手 (C')	教授	准教授	講師	助教	計 (D)	助手 (D')
7	9	7	12	35	5	8	9	7	10	34	6
[Δ1]	[]	[]	[+2]	[+1]	[Δ1]	[]	[]	[]	[]	[]	[]

(注) ・ 「設置時の計画」には、設置時に予定されていた完成年度時の人数を記入するとともに、() 内に開設時の状況を記入してください。

・ 「現在（報告時）の状況」には、報告年度の5月1日の教員数（実人数）を記入してください。

・ 「現在（報告時）の完成年度時の状況」には、「現在（報告時）の状況」に記入した数字に、教員審査を受審済みであり、

完成年度までに就任する教員数を加えた数を記入するとともに、[] 内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：Δ1）

・ 「現在（報告時）の完成年度時の計画」には、予定されている完成年度時の人数を記入するとともに、

[] 内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：Δ1）

(2) - ③ 年齢構成

年齢構成		
定年規定の定める 定年年齢（歳）	報告時（上記 (B)）の教員の うち、定年を延長 して採用している 教員数	完成年度時（上記 (C)）の教員う ち、定年を延長し て採用する教員数
65 歳	2 名	2 名

(注) ・ 「年齢構成」には、当該学部における教員の定年に関する規定に基づく定年年齢（特例等による定年年齢ではありません）、

及び、報告年度の5月1日現在、定年に関する規定に基づく特例等により定年を超えて専任教員として採用されている

教員数及び完成年度時に定年を超えて専任教員として採用する教員数を記入してください。

・ なお、職位等によって定年年齢が異なる場合には、職位ごとの定年年齢を「定年規定の定める定年年齢」に二段書きで記入

し、「定年を延長している教員数」には合算した数を記入してください。

(2) - ④ 設置時の計画に対する教員充足率

$$\frac{\text{現在（報告時）の完成年度時の状況(C)}}{\text{設置時の計画(A)}} = \frac{35}{34} = \boxed{102.94} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(2) - ⑤ 現在（報告時）の状況における定年を延長している教員構成率

$$\frac{\text{報告時の教員のうち、定年を延長して採用している教員数}}{\text{現在（報告時）の状況(B)}} = \frac{2}{34} = \boxed{5.88} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(2) - ⑥ 設置時の計画に対する助手充足率

$$\frac{\text{現在（報告時）の完成年度時の状況(C')}}{\text{設置時の計画(A')}} = \frac{5}{6} = \boxed{83.33} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(3) 専任教員辞任等の理由

(3) - ① 専任教員の就任辞退（未就任）の理由及び後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	時期	担当予定科目	後任補充状況	就任辞退（未就任）の理由													
1	教授	今井 秀樹	R2.3	必修	臨床検査学演習	①	R2年3月…一身上の都合（家族関係）による帰郷のため就任辞退												
				必修	公衆衛生学	①													
				必修	実用医療英語	①													
				必修	看護研究の基礎	①													
				必修	英語論文のクリティーク	①													
2	教授	齋藤 益子	R2.3	必修	卒業研究	①	R2年3月、一身上の都合により就任辞退												
				必修	母性看護学概論	①													
				必修	国際看護学	①													
				必修	英語論文のクリティーク	①													
3	教授	酒井 一夫	R2.3	必修	卒業研究	①	R2年3月、一身上の都合により就任辞退												
				必修	臨床検査学演習	①													
				必修	実用医療英語	①													
				必修	看護研究の基礎	①													
				必修	英語論文のクリティーク	①													
4	講師	長島 真由美	R2.3	必修	災害看護学	①	R2年3月、一身上の都合により就任辞退												
				必修	疾病予防看護学	①													
				必修	自立支援教育論	①													
				必修	在宅看護学概論	①													
				必修	在宅看護学実習Ⅰ 〔在宅における看護実践と他〕	①													
				必修	英語論文のクリティーク	①													
				必修	在宅看護学実習Ⅱ 〔地域におけるケアシステム〕	①													
				必修	在宅看護学実習	①													
				必修	看護学統合実習	①													
必修	卒業研究	①																	
5	講師	加藤 江里子	R2.3	必修	英語論文のクリティーク	①	R2年3月、一身上の都合により就任辞退												
				必修	看護学統合実習	①													
				必修	卒業研究	①													
6	助教	篠原 枝里子	R2.3	必修	看護学体験実習	①	R2年3月、一身上の都合により就任辞退												
				必修	日常生活援助展開実習	①													
				必修	看護過程展開実習	①													
				必修	母性看護実践論	①													
				必修	英語論文のクリティーク	①													
				必修	母性看護学実習	①													
				必修	看護学統合実習	①													
必修	卒業研究	①																	
合計 (D)				後任補充状況の集計 (E)															
就任を辞退した教員数				担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)				①の合計数 (a)				②の合計数 (b)				③の合計数 (c)			
5	人	必修	37	科目	必修	37	科目	必修	0	科目	必修	0	科目						
		選択	0	科目	選択	0	科目	選択	0	科目	選択	0	科目						
		自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目						
		計	37	科目	計	37	科目	計	0	科目	計	0	科目						

- (注) ・ 認可時又は届出時以降、就任を辞退した全ての専任教員の就任辞退の理由を具体的に記入してください。
 ・ 「就任辞退（未就任）」とは、認可又は届出時に就任予定としながら、実際には就任しなかった教員のことです。就任した後に辞任した教員は、以下「(3) - ②専任教員辞任の理由及び後任補充状況」に記入してください。
 ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに就任を辞退した場合、赤字にて記入するとともに、「就任辞退（未就任）の理由」に就任辞退の理由等及び（ ）書きで報告年度を記入してください。
 ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- ・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」
 ・ 兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」
 ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(3) - ② 専任教員辞任の理由及び後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	時期	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由													
1		該当なし																	
合計 (F)				後任補充状況の集計 (G)															
辞任した教員数				担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)				①の合計数 (a)				②の合計数 (b)				③の合計数 (c)			
0	人	必修	0	科目	必修	0	科目	必修	0	科目	必修	0	科目						
		選択	0	科目	選択	0	科目	選択	0	科目	選択	0	科目						
		自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目						
		計	0	科目	計	0	科目	計	0	科目	計	0	科目						

- (注) ・ 一度就任した後に、定年による退職以外の理由で辞任した全ての専任教員について記入してください。
 ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに辞任等した場合、赤字にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等及び（ ）書きで報告年度を記入してください。
 ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- ・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」
 ・ 兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」
 ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(3) - ③ 上記(3) - ① ・ (3) - ② の合計

合計(D) + (F)			後任補充状況の集計(E) + (G)										
辞任等した教員数	担当科目数の合計(a) + (b) + (c)		①の合計数(a)		②の合計数(b)		③の合計数(c)						
6	人	必修	37	科目	必修	37	科目	必修	0	科目	必修	0	科目
		選択	0	科目	選択	0	科目	選択	0	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
		計	37	科目	計	37	科目	計	0	科目	計	0	科目

(3) - ④ 設置時の計画に対する教員辞任率

$$\frac{(3) - ③ \text{合計(D)+(F)}}{(2) - ② \text{設置時の計画(A)}} = \frac{6}{34} = 17.64 \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(3) - ⑤ 定年により退職した専任教員に対する後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由							
1		該当なし											
2													
合計													
辞任した教員数			担当科目数の合計(a) + (b) + (c)		①の合計数(a)		②の合計数(b)		③の合計数(c)				
0	人	必修	0	科目	必修	0	科目	必修	0	科目	必修	0	科目
		選択	0	科目	選択	0	科目	選択	0	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
		計	0	科目	計	0	科目	計	0	科目	計	0	科目

- (注) ・ 定年により退職した全ての専任教員について記入してください。
 ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに辞任等した場合、赤字にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等及び()書きで報告年度を記入してください。
 ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- | |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <ul style="list-style-type: none"> ・ 専任教員が担当する(している)場合は「①」 ・ 兼任兼担教員が担当する(している)場合は「②」 ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」 |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

(4) 専任教員交代に係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

専任教授が3名と、専任講師が2名、専任助教が1名一身上の都合により就任を辞退されたが、教育に支障が生じない様後任の補充を行うとともに、講師及び助教の担当科目については、科目責任者を始め、複数の教員で担当しているため教育に支障は生じないと考える。また、学生への周知はシラバスならびに、カリキュラムガイダンスを通じて、担当教員の変更を通知している。

- (注) ・ 上記(3)の専任教員辞任等による学生の履修等への影響に関する大学の所見、学生への周知方法、今後の方針などを可能な限り具体的に記入してください。

6 附帯事項等に対する履行状況等

区 分	附 帯 事 項 等	履 行 状 況	今 後 の の 実 施 計 画
認 可 時 (平成31年5月)	該当なし		

- (注) ・ 「認可時」には、認可時または届出時に付された附帯事項（学校法人の寄附行為又は寄附行為変更の認可の申請に係る附帯事項を除く。）と、それに対する履行状況等について、具体的に記入してください。
- ・ 「設置計画履行状況調査時」には、当該年度の調査の結果、当該大学に付された指摘を全て記入するとともに、付された指摘に対する履行状況等について、具体的に記入してください。その履行状況等の参考となる資料があれば、添付してください。
 - ・ 「履行状況」では、履行中であれば「履行中」、履行が完了していれば「履行済」を選択してください。
 - ・ 該当がない場合には、「附帯事項等」の部分に「該当なし」と記入してください。
 - ・ 「設置計画履行状況調査時」には、当該調査の実施年度の年を記入してください。

7 その他全般的事項

<東が丘看護学部 看護学科>

(1) 設置計画変更事項等

設置時の計画	変更内容・状況、今後の見通しなど
	該当なし

(注) ・ 1～6の項目に記入した事項以外で、設置時の計画より変更のあったもの(未実施を含む。)及び法令適合性に関して生じた留意すべき事項について記入してください。

(2) 教員の資質の維持向上の方策 (FD・SD活動含む)

① 実施体制

a 委員会の設置状況
東京医療保健大学東が丘看護学部FD委員会規程(別途添付)に基づき、東が丘看護学部FD委員会を設置済

b 委員会の開催状況(教員の参加状況含む)
毎月一回開催の計画
今年度は4月7日、5月14日に開催、それぞれ委員6名全員参加

c 委員会の審議事項等

- (1) 授業内容・方法の改善
- (2) 研究推進体制の整備
- (3) 各種研修会、研究会の実施
- (4) 外部研究費の導入の推進
- (5) 職員研修会等の実施
- (6) その他FDに関する事

② 実施状況

a 実施内容 (今年度は5月1日現在次の通り)

- ・ 令和元年度年報の作成 (今後も継続予定)
- ・ FD分掌の作成に着手
- ・ 新任教員のための研修会(コロナの影響で延期中)

b 実施方法
FD分掌の把握については、本学に望む教職員・組織の意見および日本の先駆的なFDSDに取り組んでいる9大学におけるFDSD活動を推挙し、その根拠と、本学へのヒントをまとめた。
この基本データをもとに、30のローデータと16のFDとしての視点が抽出され、蘇飛奇人、教育者、研究者理想の大学の4つのカテゴリにまとめた。

c 開催状況(教員の参加状況含む)
委員会にて役割分担を行い、持ち帰って作業、次回の委員会に持ち寄って協議を進めた。

d 実施結果を踏まえた授業改善への取組状況
実施中のため、結果測定は今後行う予定

③ 学生に対する授業評価アンケートの実施状況

a 実施の有無及び実施時期
・ 例年実施することとしているが、今年は新型コロナウイルス感染拡大防止のため、登校自粛としており、実施時期は未定である。

b 教員や学生への公開状況、方法等
・ ホームページ(ウェブ)等で公開していくこととしているが、今年はaにより未定である。

(注) ・ 「①a 委員会の設置状況」には、関係規程等を転載又は添付すること。
「②実施状況」には、実施されている取組を全て記載すること。(記入例参照)

(3) 教育課程連携協議会に関する事項

※専門職大学、専門職短期大学、専門職大学院以外は「該当なし」と記入ください。

該当なし

(4) 自己点検・評価等に関する事項

・本学学則第4条(注)に則り、本学全体の教育研究水準の向上を図り、その目的及び社会的使命を達成するため、自己点検・評価委員会を設置している。

(注)第4条 本学は、教育研究水準の向上を図り、その目的及び社会的使命を達成するため、教育及び研究、組織及び運営並びに施設及び設備の状況について、自ら点検評価を行い、その結果を公表する。

2 本学に自己点検・評価を行うため、東京医療保健大学自己点検・評価委員会を独立した特別委員会として設置する。

3 自己点検・評価に関する事項は別に定める。

・自己点検・評価委員会においては、本学の建学の精神及び教育目標・教育目的を具現化するために、教育研究活動に必要な組織・制度と諸条件を整備し、その機能を十分発揮できるよう本学の教育研究に関する活動状況並びに組織、施設・設備、運営状況等について、自己点検・評価を実施するとともに、所要の改善を図ることとしている。

・本学においては、平成20年度に開学後初となる自己点検・評価を実施し、その結果を報告書としてまとめ、ホームページに公表。平成21年度以降毎年度、自己点検・評価を実施し、公表している。

・平成30年度には、公益財団法人大学基準協会による大学評価(認証評価)を受審し、大学基準に適合していると認定。評価結果はホームページに公表。
なお、認定の期間は、平成31年4月1日から令和8年3月31日までとされている。

② 自己点検・評価報告書

a 公表(予定)時期

・新型コロナウイルス感染拡大防止対応があり、現状未定であるが学部教育再開後は教育研究等の状況について、自己点検・評価後、それぞれ報告書を取りまとめ公表する。(翌年5月を予定)

b 公表方法

・点検・評価報告書については、本学の大学経営会議及び理事会・評議員会において審議・承認を経た後、ホームページ上に公開している。

③ 認証評価を受ける計画

・平成30年度に受けたばかりであり、次回は令和7年度に公益財団法人大学基準協会による大学評価(認証評価)を受審する予定。

(注) ・ 設置時の計画の変更(又は未実施)の有無に関わらず記入してください。
また、「① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見」については、できるだけ具体的な根拠を含めて記入してください。
なお、「② 自己点検・評価報告書」については、当該調査対象の組織に関する評価内容を含む報告書について記入してください。

(5) 情報公表に関する事項

○ 設置計画履行状況報告書(令和2年度)

a 公表予定の有無 [有 ・ 無]

◀ aで「有」の場合 ▶

b 公表(予定)時期 [調査結果公表後1ヶ月以内 ・ 公表後2~3ヶ月以内 ・ 公表後3ヶ月以降]

c 公表方法 [ウェブサイトへの掲載 ・ その他 ()]

◀ aで公表「無」の場合 ▶

d 公表しない理由 [()]

※設置計画が各大学等が社会に対して着実に実現していく構想を表したものであることに鑑み、設置計画履行状況報告書については、各大学等のウェブサイトにて公表するなど、積極的な情報提供をお願いします。

東京医療保健大学東が丘看護学部FD委員会規程

(設置)

第1条 東が丘看護学部の教職員の資質の維持向上を図るため、東が丘看護学部FD委員会（以下「委員会」という）を設置する。

(構成)

第2条 委員会は次の者をもって構成する。

- (1) 大学経営会議において任命する教員。
- (2) 大学経営会議室長、事務局長及び東が丘看護学部等事務部長。
- (3) 学部長は必要に応じて出席することができる。
- (4) 委員長が認めるときは、委員以外のメンバーを出席させ、意見等を聴取することができる。

(審議事項)

第3条 委員会は次の事項を審議する。

- (1) 授業内容・方法の改善。
- (2) 研究推進体制の整備。
- (3) 各種研修会、研究会の実施。
- (4) 外部研究費の導入の推進。
- (5) 職員研修会等の実施。
- (6) その他FDに関すること。

(委員長等)

第4条 委員会には委員長及び副委員長を置く。

2 委員長及び副委員長は、大学経営会議において任命する。

(議事)

第5条 委員長は、委員会を招集し、議長となる。

(開催日)

第6条 委員会は、原則として月1回開催する。

附則

本規程は平成22年12月8日から施行する。